

日本人のほぼ半数が「景気はこれ以上悪くならない」 「シノベイト 経済に関するグローバル意識調査」

グローバル・マーケティング・リサーチ会社のシノベイトは、2009年5月、世界26ヶ国(日本を含む)、17,300名を対象に、経済と価格に関する意識調査を実施いたしました。

主な調査結果

- 1) 半年前に比べ、景気に対して楽観的な見方が広がる
- 2) 自国の経済に対する各国の見方でも回復傾向
- 3) 不況にうんざり・・・気持ちの切り替えを図りたい人々



◆調査概要

実施機関: シノベイト 実施時期: 2009年5月

対象国(26カ国): アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、ブルガリア、カナダ、キプロス、デンマーク、フランス、ドイツ、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、セルビア、南アフリカ、スペイン、台湾、トルコ、アラブ首長国連邦(UAE)、イギリス、アメリカ

*下線の17カ国は2008年11月の調査でも対象国であった

対象者: 17,300名

調査内容: 自国の経済状況、購買行動に関する変化、経済に対する意識など

1) 半年前に比べ、景気に対して楽観的な見方が広がる

経済について—これはおそらく今人々の最も関心のあるテーマであろう。シノベイトでは、2008年11月に引き続き、本年5月に「シノベイト 経済に関するグローバル調査」を世界26カ国で実施した。

最新の調査結果からわかるのは、人々が経済の見通しに関して明るい予想をするようになっており、自分自身および自国の経済に関して、やや楽観的になってきていることだ。また、不況で今までの習慣を変えざるを得ないならば、もうすでに変えていることがわかる。そして、人々は不況にうんざりしてきており、ささやかな楽しみを求める気持ちが大きくなってきているようだ。

不況は世界中の経済に多大なるダメージを与えたが、経済だけではなくもっと損害を与えたものがある。国によっては人々の考え方や習慣さえも変えてしまったのだ。不況によって、いまだ憂鬱な気分のままの人々もいれば、不況の影響をただじっと見ているだけの人たちもいるし、不況は乗り越えてしまった人たちもいる(財布の中ではなく、気持ちの中で)。シノベイトのナレッジ・マネージメント&インサイトのグローバル・ディレクターを務めるマイク・シャーマンは、こう語る。「全体像をつかむため、2009年5月の調査に参加した国の結果を2008年11月の結果と比較してみました。前回の結果と比較すると、世界中で楽観的な見方が広がっていること、少なくとも悲観的な見方をしないようになった様子が見えます。」

2) 自国の経済に対する各国の見方でも回復傾向

2009年5月の調査では、26ヶ国からなる全対象者では、自国の経済は好景気であると回答したのはたった4%だったが、数ヶ国が他の国に比べてかなり楽観的だった。キプロスでは17%、ブラジルとインドではそれぞれ13%、デンマークでは12%が自国の経済は好景気であると答えた。

シノベイト・ムンバイのエグゼクティブ・ディレクターであるパル・ミノチャは、以下のように述べている。「インドでは全体的なムードが上向きです。インド経済はこの不況の前から成長しており、今も発展は続いています。たくさんのブランドが投入され、消費者は娯楽と観光に出費しています。よく言われるように、この国は貯蓄文化です。人々は将来を考えて、小さな困難は何とか乗り切ります。」

シノベイト・インドで定性調査のヘッドを務めるシュラバニ・センによると、彼女が普段話をする都会に住む平均的なインド人は、少しの間だけ慎重な様子を見せていたものの、現在は不況前の状態に戻っているということだ。「インドの人々の間では、不況は常に西欧諸国だけに影響があるものと見られていましたが、今回はインドも影響を受けるかもしれないと少しの間は考えられていました。しかし今では、インドは急速に発展しており、世界的な経済不況さえも自国の発展を減速させることはできないというゆるぎない自信を持っています。」

デンマークのリサーチ・ディレクターであるマリア・ピエロウは、デンマークという国はグローバルな競争から守られている感じがあると言っている。「デンマーク経済は2~3の大規模産業ではなく、多くの小規模産業で成り立っています。つまり我々は他のスカンジナビアの隣国とは違って、グローバルな影響を受けにくいのです。」

全26ヶ国を通じて多くの人が持っている景気の認識は「景気はまだ悪いが、すぐに回復する」で、全体の39%がこう答えた。最も多かったのはインドネシアで75%、続いてアラブ首長国連邦(UAE)(59%)、マレーシア(58%)の順だった。

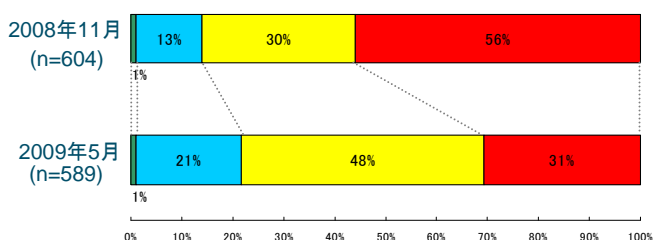
最も悲観的な国でさえも6ヶ月前よりは楽観的になってきている。

今回の調査では、全26ヶ国の対象者の31%が、「景気は後退局面にあり、さらに悪化する」と答えており、この回答が最も多かったのはフランス、次いでイギリス、アメリカの順だった。しかし、フランス(今回52%/前回65%)、イギリス(今回51%/前回75%)、アメリカ(今回49%/前回69%)でそれぞれこの回答が減少していることから、2008年11月の調査と比較すると、これらの国々でも楽観的になってきているのが見て取れる。

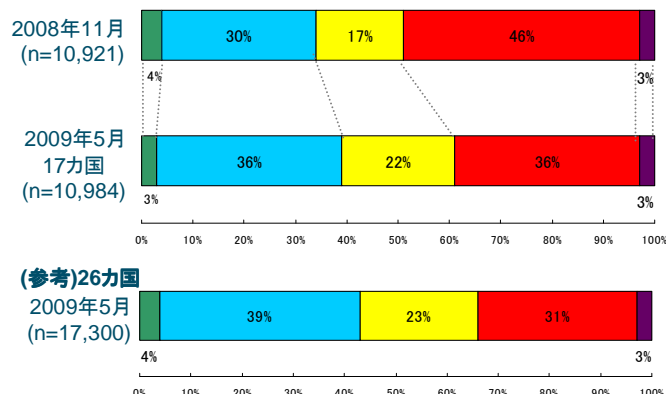
さらに、多くの人たちが現状に対して肯定的であることも明らかになった。全体の23%が「景気は今が最も悪い」と言っており、こう答えたのは韓国(66%)が最も多く、次いで日本(48%)、ブルガリア(36%)の順だった。

回復までの道程はまだ遠いかも知れないが、少なくともこう答えた対象者は「景気は底を打った」と思っている。

<日本>



<グローバル>



凡例:

■ 好調/好景気である ■ 景気はまだ悪いがすぐ回復する ■ 景気は今が最も悪い ■ 後退局面にありさらに悪化する ■ わからない

*注) 上記グローバル調査結果のグラフでは、比較のため、2008年11月と2009年5月の両方の調査に参加した17カ国の結果を抜粋した

3) 不況にうんざり...気持ちの切り替えを図りたい人々

新聞には希望が持てない見出しが並び、景気刺激策、出費抑制などが何ヶ月も続いた。しかし、そろそろ本当に我々は警戒し続けなくてはならないのかと疑問を持ち始め、経済以外の他のことを考えたい様子だ。調査では対象者にいくつかの文章について、「そう思う」か「そう思わない」かをたずねた。

「自分のお気に入りのものは常に何とか手に入るようにしている」

「そう思う」と答えた人は全体で67%、国別で割合が高かったのがインド(85%)、デンマーク(81%)、ドイツ(79%)だった。

「経済危機の影響で多くの小売店が著しく価格を下げたので、ドイツではほぼ0%のインフレ率です。」と説明するのはシノベイトドイツのマネージングディレクターであるヘラルド・ハッセルマンだ。「今年は多くの分野で生活コストが低くなりました。そのため、人々は自分を満足させる余裕があるのです。」

「現在の経済状況のために、人生に関わる大きな決断を変更した」

「そう思う」と答えた人は全体で30%、国別で割合が多かったのはトルコ(62%)と南アフリカ(61%)だった。

シノベイト南アフリカのマネージングディレクターを務めるシャーロット・ジャクソンは以下のように説明する。「多くの南アフリカ人はギリギリの生活をしています。ですから、経済危機が起こるとともにその影響を受けます。彼らは時代の流れとともに自分の生活を変えなくてはならないのです。例えば、結婚式のような費用のかかる行事は延期しなければなりません。車を買うというのも大きな決断ですが、可処分所得が低いと、これも延期しなくてはなりません。その他の影響を受ける決断としては仕事やキャリアの変更があります。特に失業率が上昇しているので(21.9%→23.5%)、人員整理は脅威です。」

一方、ほとんどのベルギー人やドイツ人(各85%)、デンマーク人や日本人(各83%)、キプロス人(81%)、イギリス人やオランダ人(各80%)は経済状況だけを理由に生活を変える必要はないようである。シノベイトベルギーのマネージングディレクターであるガード・カールワートは状況を次のように説明している。「ベルギーの人口の大部分は経済危機によって収入に影響を受けていません。実際、1月には物価スライド制のおかげで約4%のサラリー引き上げがありました。同時に消費者物価が下がっており、現在ベルギーでは購買力が上がっています。」

シノベイトイギリスで金融ビジネスサービスおよび消費材サービスのグループヘッドを務めるトニー・スミスは付け加える。「80%のイギリス人は人生に関わる大きな決断を変更する必要がありませんでした。小さな節約が積み重なって、生活の安定維持に大きく寄与しているようです。」

「経済は退屈なので、あまり注意を払っていない」

「そう思う」と答えた人が全体で29%、最も多かったのは香港で54%だった。

シノベイト香港のマネージングディレクター ブレンダン・シェアは、これは金融の中心地における経済ニュースの氾濫を反映していると言っている。「人々はニュースに動じなくなっており、また、ニュースは必ずしも実態を反映していません。店は実際には人で賑わっているのです。」

ニュージーランドの定性調査リサーチディレクターであるグラント・ストーリーはニュージーランドの消費者の間で軽い安心や息抜きを求める動きが大きくなっていると見ている。「感情面では、人はもう心配したくないのです。心の逃避として楽しいことを求めています。しかし、まだまだ安心するには早いことも皆わかっています。地域の劇場後援者の一人は『このような暗いニュースばかりの中で人が求めているのは、外に出て、笑うことなのです』とコメントしています。」

不況が原因の変化は一時的なものか、永久的なものかはまだわからない。景気は今後どうなるのか、人々はこのまま楽観的な方向に向かうのか・・・まだまだ多くの疑問があるが、大勢は明るい方向に気持ちを切り替えたいと希望していることは確かである。

シノベイトについて www.synovate.com

シノベイトはAegis Group plcのマーケティング・リサーチ部門として、世界62カ国に広がるネットワークを駆使し、クライアントに必要なグローバル・サポートと総合的なマーケティング・リサーチ・サービスを提供しております。

[内容のお問い合わせ]

シノベイト株式会社 担当: 山口 真理子

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19

TEL **03-5408-3853**

FAX **03-5408-3851**

E-mail **japan@synovate.com**